

HEAT 20

2011年度 活動概要 2011.2.28

2020を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会

Investigation committee of Hyper Enhanced insulation
and Advanced Technique for 2020 houses

地方独立行政法人北海道立総合研究機構 建築研究本部

北方建築総合研究所 環境科学部 鈴木 大隆

2010.06.25現在

本委員会

委員長:坂本

目標水準WG

主査:砂川

工法開発WG

主査:鈴木

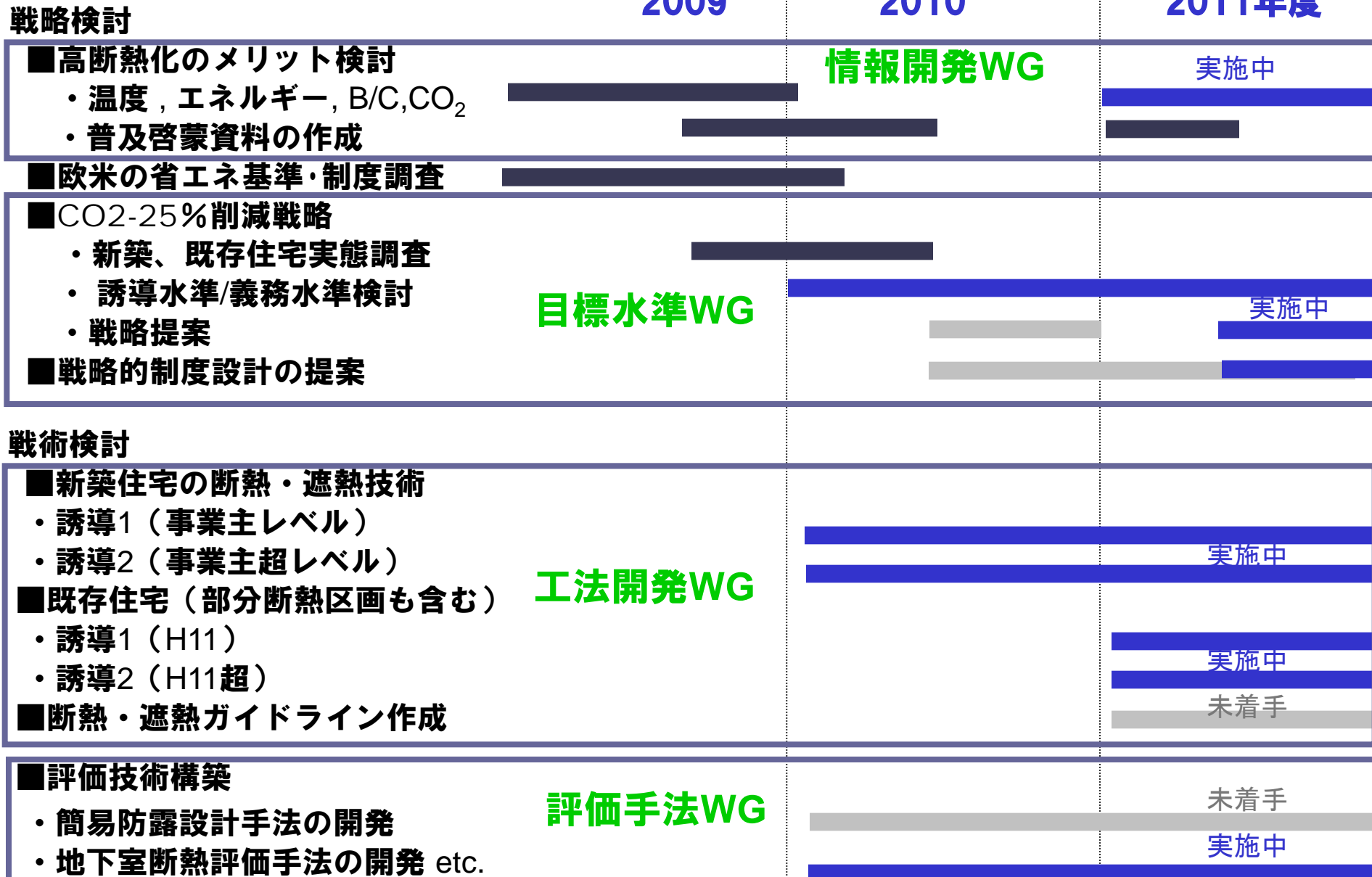
評価手法WG

主査:岩前

情報開発WG

主査:中尾

	氏名	所属
委員長	坂本 雄三	東京大学大学院建築学専攻教授
委員	鈴木 大隆	北方建築総合研究所環境科学部研究主幹
委員	岩前 篤	近畿大学理工学部建築学科教授
委員	中尾 哲朗	押出発泡ポリスチレン工業会事務局長
委員	永井 敏彦	ウレタンフォーム工業会技術委員
委員	千代田 健	EPS建材推進協議会企画開発部長
委員	宮内 亨	フェノールフォーム協会事務局
委員	大塚 弘樹	高発泡ポリエチレン工業会技術委員
委員	小竹 和広	ロックウール工業会
委員	松岡 修	硝子繊維協会技術顧問
委員	栗原 潤一	プレハブ建築協会
委員	梅野 徹也	プレハブ建築協会
委員	荒川 琢也	プレハブ建築協会
委員	千葉 陽輔	プレハブ建築協会
委員	坂部 芳平	三井ホーム株式会社
委員	塩出 有三	ALC協会
委員	逢坂 達男	社団法人日本木造住宅産業協会技術開発委員長
技術専門委員	新井 政広	株式会社アライ代表取締役社長
技術専門委員	松岡 大介	株式会社ポラス暮らし科学研究所 住環境グループ長
S委員	小浦 孝次	EPS建材推進協議会技術委員長
S委員	布井 洋二	硝子繊維協会業務委員長
コンサルタント	砂川 雅彦	砂川建築環境研究所代表取締役
事務局	八木 一彰	財団法人建築環境省エネルギー機構住宅研究部
事務局	鶴澤 孝夫	硝子繊維協会事務局



■最近の国内外情勢

【国内】

- ・住宅版エコポイントによる市場活況化
- ・3.11とエネルギーと暮らしの安全
- ・3.11以降の建築技術に対する再認識
- ・smart HOUSE、ZEHへの関心
- ・住宅省エネ規制化＋誘導検討の本格化 等

【国外】

- ・ZEH、plusエネルギー
- ・エネルギーパス
- ・環境ビジネスの活況化
- ↓
- 「立ち遅れ」が目立つ日本

※展開すべき視点は何か・・・？

■2011年度成果(予想)

- ・各県別住宅ストック＋将来着工予測
- ・地域区分別断熱水準実態
- ・EB＋NEBからの断熱グレード
- ・高断熱化工法dataシート
- ・基礎断熱＋地下室断熱評価手法
- ・エンドユーザ向けパンフレット 等

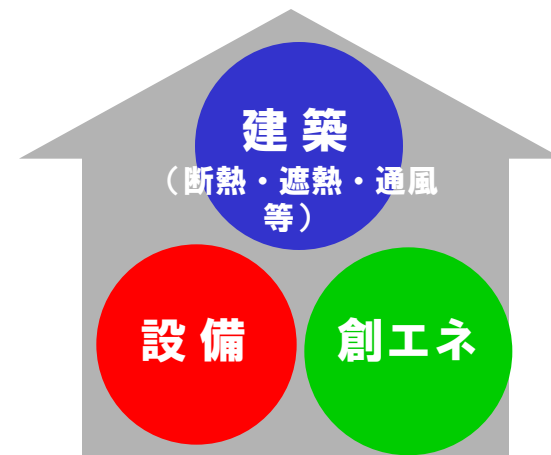
断熱水準と省エネ効果予測(概略)

※これらの成果を基に2012. 2. 20公開報告会を実施予定

➤ 現 状

3.11を契機に、
「節電」、「ピークカット」、「再生可能エネルギー」、
「災害時の安全性(熱環境も含め)」に対する
国民意識は向上しているが、
個々の対応・施策が個別に展開されているのが現状

一次エネルギーの観点から、
建築・設備・創エネが相互にトレードオフされる住宅



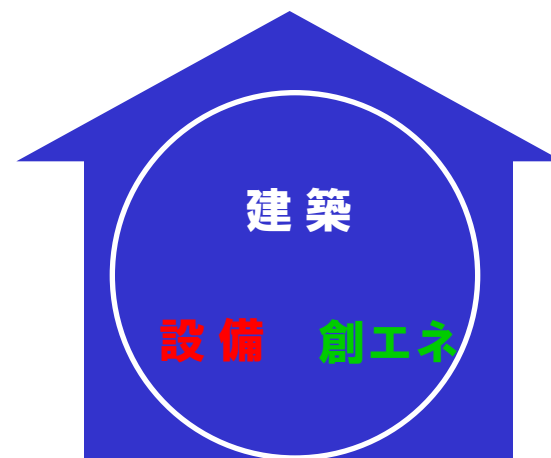
➤ 視 点

「建築・設備・創エネ」を最適コストで実現し、
・エネルギーの安全保障
・「省エネ(EB)」と「室内環境の質の向上(NEB)」
が確立する住宅を明確に示す必要がある。

エネルギー」と「環境の質」と「コスト」の観点から
建築・設備・創エネがバランスよく調和した住宅

HEAT20の役割

- ・明日の日本の住まいの方向性を示し
- ・技術を具現化し
- ・それを促進するための提言をすること



■ 建築技法・作法の方向性

■ 情報発信

- ・エンドユーザー向け
 - ・環境の質の向上とエネルギー問題
- ・建築と設備が調和した設計ガイドラインの策定
 - ・実務者(一般地)向け
 - ・実務者(被災地)向け

「断熱」すれば・・・

ムダなく

健康で

快適に

暮らせます。

2020年を見据えた住宅の高断熱化技術開発委員会

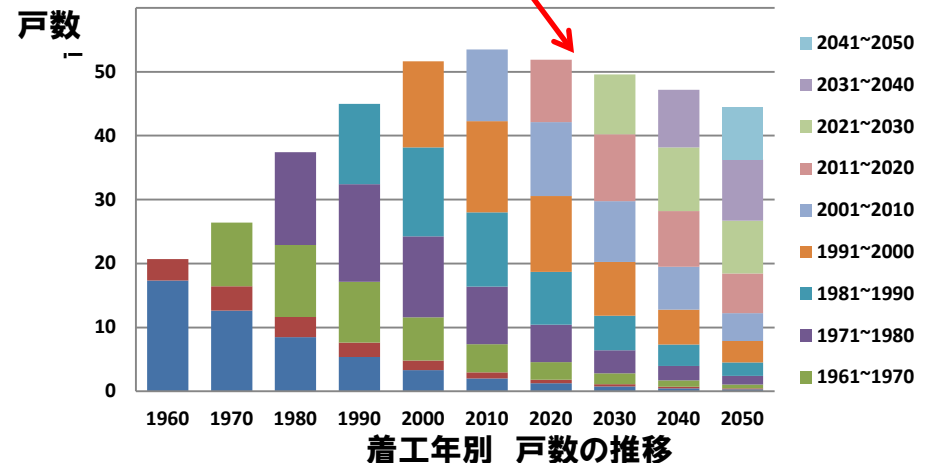
HEAT 20

Investigation committee of Hyper Enhanced insulation and Advanced Technique for 2020 houses

2020時の低炭素化のためには
既存建物の省エネ改修が急務

2050年時の低炭素化のためには
高い省エネ新築住宅の供給が急務

■ 明日への住まい戦略検討



趣旨説明

HEAT 20 平成23年度活動概要

EB・NEBから見た断熱水準検討・・・必要な性能？

➤ 戦略提案に向けて
住宅ストック・建設動向予測

↓
導入効果の検討

建築技法の提案
+ 戦略検討

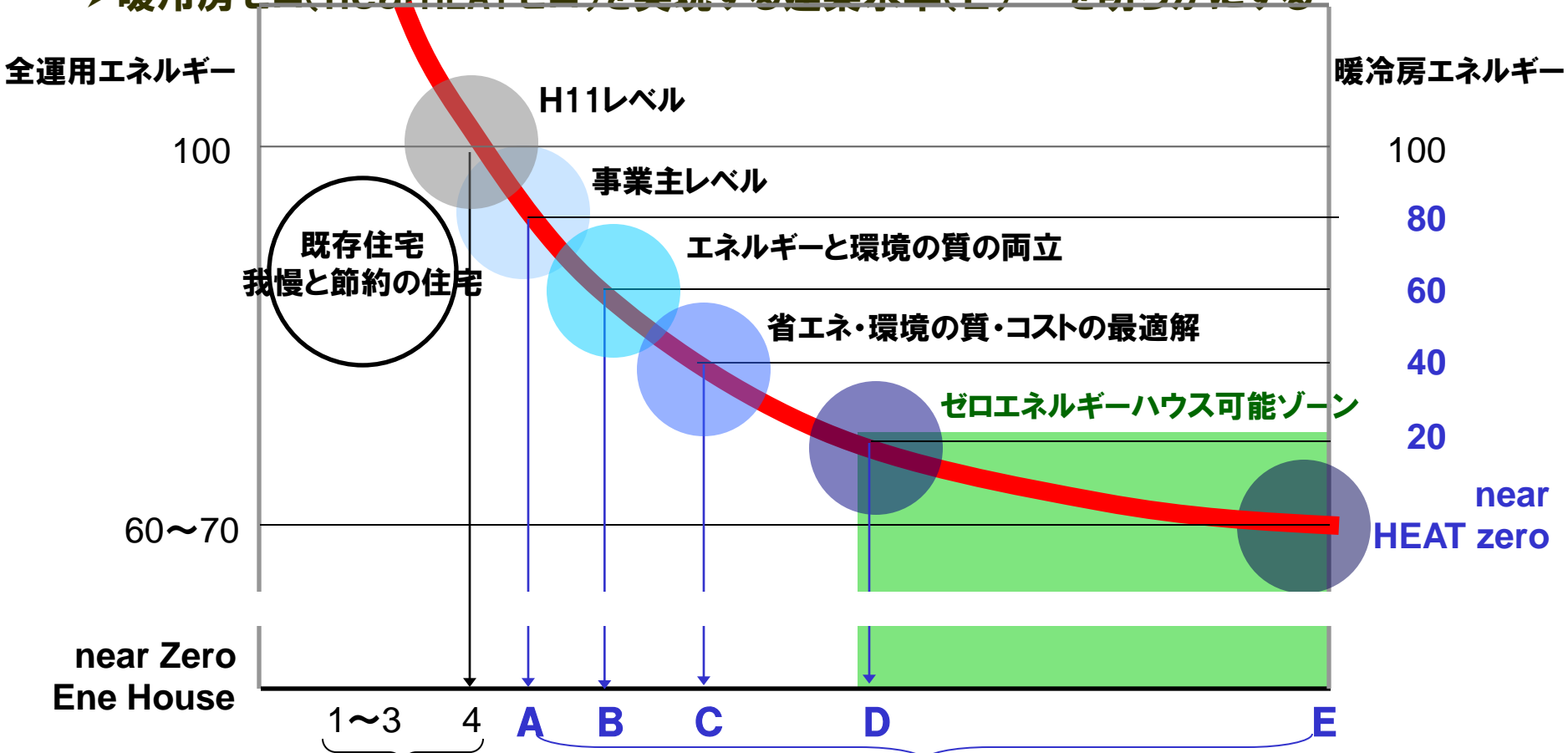
➤ 夏季の居住環境と断熱
夏季の居住環境調査

↓
高断熱住宅の夏季対応

情報発信

今後の展開

- エナジーベネフィットとノンエナジーベネフィットとコストが両立する建築水準 (C)
- ZEH実現のための最低建築(断熱・遮熱・通風等)水準(D)
- 暖冷房ゼロ(nearHEATゼロ)を実現する建築水準(E) を明らかにする



現行 住宅性能表示 省エネ等級

HEAT20では設備設計との関わりを含めて水準を提案 4~5水準

建築性能(断熱・遮熱・通風)グレード